

おかあさんの被爆ピアノ



Introduction

昭和20年8月6日8時15分…

広島に投下された一発の原子爆弾。
街と共に一瞬にして消えたたくさんの命。

そうした壊滅的な状況の中で
奇跡的に焼け残ったピアノ。被爆ピアノ…
それを託された広島の調律師・矢川光則さんは、
修理・調律、自ら4トトラックを運転して
全国に被爆ピアノの音色を届けて回ることに。

「70年経って被爆体験者は段々いなくなって、
あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノ
は、その音色ですっと原爆のことを伝えていくこと
が出来る」と矢川さん。

被爆から75年を迎える今、
ピアノの音色で被爆の記憶を伝えていきます。



「世代を超えて伝えられるメッセージと調べ。
忘れてはいけない大切な想い。
沢山の若者たちに観てもらいたい、
心が優しくそして強くなる映画だ。」

プロスキーヤー
クラーク記念国際高等学校 校長
三浦雄一郎

75年目のいま、蘇った音色が私たちに語りはじめる



昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則(佐野史郎)。彼自身も被爆二世。

爆心地から3キロ以内で被爆したピアノは被爆ピアノと呼ばれる。
矢川は、現在数台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それを白ら運
転する4トトラックに載せて全国を回っている。

東京で生まれた江口菜々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園
教師を目指しているものの将来について漠然としている。

被爆ピアノの一台を母・久美子(森口瑠子)が寄贈していたことを知った
菜々子は、被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通して被
爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身の
ルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか?
祖母・千恵子が菜々子に伝えたかったことは?
調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか?
菜々子はルーツを辿り、被爆ピアノの活動を辿りながら次第に何かを見
つけていく…。

Story



戦後75年目。被爆から75年。自分を含めて今社会
を担っている大人たちの殆どが戦後生まれになって
います。戦争を知らない僕らは平和を当たり前のように
享受してきました。しかし、当たり前だと思ってい
た平和は当たり前ではないことをここ数年の世界情
勢の不安、国内で度重なり起こる災害などから強く
感じるようになりました。今更ながら平和をはずっ
と維持しようと思いついていないと平和ではなくなっ
てしまうのではないかと思うようになっていました。そ
のためには僕らが後進の若い人たちに語り継がなくな
ってはいけないと強く思うようになりました。そのきっ
かけは11年前に被爆ピアノのドキュメンタリー番組をつ
くらせて頂いたことでした。取材をさせて頂くうちに原
爆が落とされたことや平和について考えるきっかけ
になるような映画をつくりたいと思いました。忘れない
こと、記憶し続けること、そして伝えていくこと、そうし
たことを思い起こして頂くような映画になっていまし
たら本望です。(監督 五藤利弘)



《谷本惣一郎プロフィール》

各回上映後、ミニコンサートがあります。
被爆ピアノの音色と共に楽しみください。

広島県呉市在住。
広島音楽高等学校声楽科、国立音楽大学声楽科卒業。
藤賀醇子、曾我榮子、新宅雅和、紙谷加寿子の各氏に師事。
大学在学中、ウィーンにて発声法をフランツ・ドンナー、歌唱・発音指導をクルト・エクウィルツの各氏に師事。
大学卒業後、広島市民オペラ、野薔薇座などでオペラに出演。
中学・高等学校音楽科講師、介護施設勤務を経て、現在はジャンルにとらわれず県内外でコンサート
やLIVEに出演する傍ら、ボイストレーナーとして、小学校での歌唱指導など含め、年齢を問わず
行っている。シャンソンコンクール歌唱賞を機に初心者の為のシャンソン、ボーカル、
ボイストレーニング教室を開講している。
また、2017年より毎年、シャンソンの祭典「パリ祭」に出演。

映画「おかあさんの被爆ピアノ」の
《被爆ピアノコンサート》のシーンにてキャスト出演

